

第4回草津市総合計画策定委員会概要		
日 時	平成20年11月21日(金) 16時30分～17時45分	
会 場	庁議室	
出 席 者	橋川委員長、山岡副委員長、岩井委員、片岡委員、林田委員、矢内委員、加藤委員、中島委員、善利委員、多々良委員、稲田委員、奥村委員、上寺委員、田村委員、岸本委員	

1. 開会

2. 議事

1) 第5次草津市総合計画の人口推計(案)について

事務局より説明

《意見等》

- ・他の事業で既に出している人口推計と数値が異なる。
総合計画の人口推計は、これからの基本となるものであるから、なぜ違いが生じるのか具体的な違いを調べておく必要がある。
→データ根拠を調べておく。
- ・高齢者人口は出しているが、後期高齢者の率も出す必要がある

2) 総合計画のフレームと草津市の現状と課題について

事務局より説明

《意見等》

- ・草津市の将来をどうするのか、という観点から、将来人口規模について、市の戦略として、人口増加を抑制するのか、検討が必要ではないか。
→あくまで現状で推移した場合の人口推計で検討いただきたい。市民意識調査では、「現在の人口規模を維持したまちづくりを進めていく」という意見が半数弱を占めているし「人口減少」を見据えたコンパクトなまちを進めていく」が26.4%ある。
- ・草津市として、コンパクトシティのとらえ方について整理が必要である。中心市街地を中心に都市機能を集積し、歩いて暮らせるまちにしましょうというのがコンパクトシティと考えるが。神戸市では、コンパクトタウンがあってそれぞれをコミュニティで繋いでいくのがコンパクトシティとしている。
→市内でこれだけ、開発がされている中でコンパクトシティは難しいが、各地域でコンパクトに生活できる形をつくり、それぞれが有機的に繋がっていくということは可能と考える。
幹事会においても人口を抑制するのか、増やすのかという議論があった。市街化区域においても空地は存在している所もある。市街地再開発もあるし、土地区画整理事業もある。個人の権利を制約するのも難しいという議論もあった。市街化区域に空地があるのに、調整区域の開発を認めているという現状もある。こういった中で一定抑制にかかるというのは制度的にも法的にも厳しいのではないかとということで幹事会でも認めていただいた。
- ・最近、都市力という言葉がよく使われているが、一番大切なのは草津のまちづくりをどういう戦略をもって進めていくのかということである。

- ・まちづくりの課題の中に人口増加が進むことによって、どういう課題が現在でているのか、今の時点で整理すればよいのではないか。そのうえで将来、人口を抑制しなければならないのかという次の議論をしておかなければいけない。
- ・これからの草津を考えると教育が大切である。草津の子どもをたくましく育てる学力、知育、体育、食育、国際力、自分のアイデンティティーを持った子どもにする。県中心に行われているようであるが、今までより突っ込んだ子どもの課題の分析ができるような土壌が出来てきている気がするので、総合計画の中に取り入れてはどうか。
- ・まちづくりの課題の中で、子どもの置かれている現状や教育の現状なりの課題も入れないといけない。
- ・市民、個人、ひとという所に焦点をあてたところが必要である。
- ・草津は一見すると便利に見えるが、高齢者にとってはどんどん暮らしにくいまちになってきている。こういうところの記載がない。誰もが皆暮らしやすいまちにするという点は、今後10年を考えるに当たり大きな課題になる。
- ・あれも必要これも必要となると、公共施設の建設とか、開発指向型のまちづくりに思えてしまう。
- ・直接市民生活に焦点の入っているものがない。
- ・生活、暮らしやすさから言いますと、外国人労働者の雇用の問題、若者の雇用の問題、仕事があっても年収200万円未満の方が多数おられることに対する問題もある。どんどん掲載するものが増えていく。こういうことを職安の仕事である、国の仕事であると言ってしまうと、安定した仕事に就くことそのものは、生活に関わってくるものである。教育そのものも義務教育と言って国の仕事になると、今言った雇用問題も総合計画に挙げていかなくてならない。言い出すと、総合計画に挙げるものがどれだけでも増えていく。
- ・時代に合った計画にしなければいけない。

委員長) 議論の最中であるが、時間の関係もあるので、一旦持ち帰って課題について後日レポートで出してもらいたい。

→各委員から、11月末までに課題を提出する。

2) その他

- 座・でいすかすについて
無作為抽出した2,000名に募集、4.5%(90人)の応募があった。
- 総合計画策定懇話会
12月7日(日)から開催する。長期展望に立った主要課題、主要プロジェクトを出していただく。
1回から6回は時代潮流が主となる予定。
- 市民意識調査
クロス集計の結果を報告